

(イ) 地域間連携によるスマホアプリ開発（岐阜県、札幌市、仙台市）

岐阜、札幌、仙台などの地域では、スマートフォン向けアプリやコンテンツ分野を中心とした交流を図っており、地域間の交流と連携により、新たな産業の創出に取り組んでいる（図表 1-5-2-6）。

岐阜県では、ソフトピアジャパン（大垣市）を核として、岐阜県に ICT を中心とした新産業を創造するための各種事業を推進している。平成 21 年度からは、今後のスマートフォン関連市場の拡大を見据え、「GIFU・iPhone プロジェクト」、平成 23 年度からは施策対象をスマートフォン全体に広げた「GIFU・スマートフォンプロジェクト」を推進しており、その一環として、平成 23 年 12 月に「GIFU・スマートフォンウィーク in 仙台」を仙台市において開催した。岐阜県は、東北各地のアプリ開発者団体などとの交流を活発化させており、東日本大震災からの復興支援とともに、技術や人の交流を新産業起こしにつなげることを意図し、同イベントを仙台市で開催した。岐阜県では、青森県八戸市や会津大学（福島県）、秋田県など東北各地とのコラボレーションも計画しており、さらに多くの地方、様々な活動を巻き込んだネットワーク拡大を目指している。

札幌市では、1980 年代以降、ICT 企業が相次いで設立され、2000 年（平成 12 年）頃から「サッポロバレー」と呼ばれるようになった。平成 22 年 9 月には、ICT 関連企業 33 社の他、大学や研究機関が参加した「北海道モバイルコンテンツ推進協議会」を設立し、高性能携帯電話（スマートフォン）などの普及で携帯端末コンテンツ市場が急成長する中、地域の企業が連携してソフト開発や販路開拓を進め、ビジネスチャンスの拡大に取り組んでいる。平成 23 年 2 月には「モバイルコンテンツサミット 2011 in 札幌」が開催され、みやぎモバイルビジネス研究会（仙台）、福岡ゲーム産業振興機構（福岡）、岐阜県商工労働部情報産業課（岐阜）、大阪デジタルコンテンツビジネス創出協議会（大阪）など 5 道府県の団体・自治体関係者がビジネスチャンス拡大について意見交換を行った。

仙台市では、市場が拡大している携帯電話などのモバイルインターネット分野への参入を目指し、仙台市内のソフトウェア開発会社や広告代理店、印刷会社、起業している大学生など業界を超えた企業や個人が参加した「みやぎモバイルビジネス研究会」が平成 21 年 3 月に設立され、市場動向や企業連携の可能性などの研究を行っている。平成 24 年 2 月には「モバイルコンテンツサミット 2012 in 仙台宮城」が開催され、岐阜、札幌、仙台各地の産業振興担当者などによるパネルディスカッションが開催された。

このように、岐阜、札幌、仙台などの地域では、様々なイベント等を通じ、地方自治体や民間企業などの多様な主体による重層的な連携が生まれており、スマートフォン向けアプリやコンテンツ分野を中心とした新産業の創出に向けた取組が進んでいる。

図表 1-5-2-6 アプリ開発で地方が相互に補完し知見を共有するなど連携することにより、新産業の創出と地域価値の向上を推進



(出典) 総務省「地域における ICT 利活用の現状及び経済効果に関する調査研究」(平成 24 年) (岐阜県庁資料等により作成)